



©わんこきょうだい

林業普及現地情報
2025-22号(通算554号)
令和8年1月29日
盛岡広域振興局林務部
記述者 加美章人

盛岡地域アカマツ等利用促進連絡会議の開催について

1 はじめに

盛岡広域振興局林務部では、地域の豊富な資源であるアカマツや広葉樹の利用促進を目的に、令和元年度から、標記連絡会議を開催し、施工業者、設計業者、製材業者、森林組合及び行政で、情報共有を図る取組を行っています。

昨年12月23日に会議を開催し、隈研吾建築都市設計事務所（以下「隈事務所」）の建築士をお招きし、大型木造建築物等の事例紹介をしていただきましたので、紹介します。

2 事例紹介の内容

事例紹介では、隈事務所所属の設計室長「齋藤 遼」様をはじめ、主任技師の「三宅 尚人」様、「兼本 祐輔」様、「チェイ ウェイイ」様の4名を招き、各々が携わった木造建築物等のプロジェクトや設計事例を紹介していただき、木材の活用方法、木材を使用することで期待される効果など、林業関係者とは別の目線で考えられた、木材利用の有用性について学ばせていただきました。

初めに兼本様から「守山市庁舎」「千駄ヶ谷区民複合施設」の紹介をいただき、特徴的なルーバーへの木材利用、維持管理を含めランニングコストまで見越した木材利用を意識したこと、木製のモニュメントを随所に配置し、木と触れ合う空間を創出したことなどの紹介をいただきました。

続いて三宅様からは、「富岡倉庫群」「馬頭広重美術館」の改修に係る事例紹介をいただき、閉鎖的であった建築物をいかに開放的で、地元に親しまれるような空間にするか検

討する中で、トイレなどふとした空間のスペースとして木材を活用したこと等のご紹介がありました。



齋藤設計室長

「Domino3.0」

続いて、チェイ様からの事例紹介ですが、チェイ様は、建築ではなく庭園や街路樹など建築物と一緒にとなった屋外空間全体の景観デザインを設計される「ランドスケープ」と呼ばれる専門分野に精通されており、また違った角度からの木材利用事例がありました。

最後に齋藤様から、昨年開催されたヴェネツィアビエンナーレ国際建築展へ出展した「Domino3.0」等のご紹介をいただき、自然災害の被災木を3DスキャナとAIを活用し、倒木そのままの形で構造的整合性を図る取組についてご紹介いただき、大船渡の大規模山林火災の被害木活用に活かせるのではないかと、期待の膨らむ内容でした。

3 おわりに

今回の会議では、世界的にも活躍する建築事務所の方々から、事例の紹介と構成員との木材利用に係るディスカッションを行っていただきたことで、大いに盛り上がった意見交換となりました。今後もこのような機会を設け、川上から川下が一体となった木材利用推進が図られるよう、関係者と伴走しながら取り組んでいきたいと思います。